

かがやき

第17号

2009年4月発行

◆療育の理念◆ 人間愛

基本方針

- 一、私たちは、障害を持った方の人権と意思を尊重し、誠意を持って、命の輝きを大切にする療育に励みます
- 一、私たちは、ご家族や関係機関と力を合わせて、ニーズに即した地域療育充実に努めます
- 一、私たちは、互いに信頼し、感謝の心で療育に取り組み、日々研鑽して療育の質の向上を目指します



社会福祉法人 二之沢愛育会 群馬整肢療護園

〒370-3531 群馬県高崎市足門町146-1 電話 027(373)2277 FAX.027(373)2278
E-mail sw@gunmaseishi.com HP アドレス <http://www.gunmaseishi.com>

新しい年を迎えて

昨年末に青年海外協力隊で理学療法士としてアフリカで活躍をするということで小児のリハの研修のために実習生が来ました。以前学生時代にも実習で当園に来ていたとのことでした。「どうして青年海外協力隊に参加を？」と聞いたところ「高校時代にアフリカの子ども達の写真を見て理学療法士になった。年を取っては行けなくなるかもしれないから若い今のうちに行きたいと思った。」とのことでした。

病院や福祉施設でも同じと思いますが、さまざまな資格を持った専門家集団のチーム・ワークで成り立っています。多くは高校を卒業してそれぞれの学校で学んで資格を取って就職して仕事をしています。しかし、なぜ自分があのときその道に進もうと思ったか？そして何をしようとして資格を取って仕事をしているかを日常の忙しさの中に忘れてしまいがちになります。そのような若い人の「初心忘れず」の気持ちをじかに何ったときこころ打たれるものがありました。

肢体不自由の入所者が3月に卒園して新しい世界に飛び立ちます。そしてまた新たな入園者のみなさんを迎えることとなります。まだ具体的なことはわかりませんが4月からは肢体不自由児病棟である若草病棟も重症心身障害児・者が半数を超える事態になるかもしれません。日常生活も医療的ケアの内容・重症度も今まで以上に大変になると思います。これは群馬整肢療護園の長い歴史の中でも初めてのことで、そのためには必要な人間は確保したいし、園の全職員が入所者の生活をそれぞれの立場で専門家として支えて、現状よりも一つ充実したものにできるようにしていかなければいけません。そのためには職員もあの青年海外協力隊でアフリカの子ども達の中に飛び立った「初心を忘れず」の気持ちを持った実習生の気持ちを持たなければならないと思いました。

園長 清水 信三



希望 初山三毅作

退職の挨拶

乳児園施設長 関口 洋子

愛育乳児園を6月末日に退職することになりましたが、既に5年前定年退職としての区切りがありました。再雇用としての年月をあわせ35年余りに渡る時の流れに感慨を覚えます。

昭和48年、乳児園に就職しました。その頃は通勤路は職場に近づくにつれ田園風景が広がり最初は、ととても遠く感じました。群馬整肢療護園の管理棟も木造づくりで、前の駐車場も整備されてなく職員も一緒に止めていました。最近は通い慣れた道のりを日々風景の変化を感じながら通っています。各施設の建物も改築され一新しています。乳児園も平成2年に改築していますが、年月を経ると不自由なところや傷みも出てきて改修、修繕をして赤ちゃんが快適に過ごせるよう工夫しながら、健やかな成長を見つめてきた年月でした。多くの赤ちゃんに出会い、楽しかったこと、大変だったこと、いろいろなことを思い出しますが、「こころに深く残る出来事をひとつ」と問われれば、乳幼児突然死症候群で亡くなった赤ちゃんのことです。日勤者の帰宅時には、ニコニコ元気だったのに夜勤者が気づいた時は呼吸停止状態で、すぐに療護園に通院。先生方や職員の方々に大変お世話になりました。家族には、なかなか連絡が取れず児童相談所の方からの連絡で、やっと両親に来園してもらえました。その後の一連の手続き、関係機関への報告等であわただしい日々でした。

この仕事に永年かかかってきて常に思うのは、人と人との繋がり大切さです。入所児その家族、職場、関係機関等、多くの人との関わりの中で学び、影響しあい、刺激を受けられたおかげと感謝しております。

二之沢愛育会も大きな組織になり職員数も増加しています。各々が各職場のニーズに答える意識を大切にしていくことで世の中に答えられるような二之沢愛育会としての発展を願っています。

ひかりの里増床オープン

ひかりの里施設長 後閑 敏治

特別養護老人ホームひかりの里は、平成18年5月に開設して以来、早3年が過ぎようとしておりますが、この間、入居者様・利用者様やご家族の皆様をはじめ、地域住民及び関係各位のご協力により順調に運営しております。



増床後のひかりの里

超高齢社会を迎えている現在、要介護高齢者も確実に増加していることに鑑み、老人福祉施策の一翼を担い地域福祉に貢献するため、30床を増床いたしました。増床後は、これまでの建物を本館、増床部分の建物を別館と位置付けました。また、本館のユニット名を近隣の「山」の名称にし、各部屋の名前を、1階は「木」の名前、2階は「花」の名前が付けてありますので、別館のユニット名は、本館と同じく近隣の「こもち」、「しらね」、「みずさわ」の「山」の名称にし、各部屋の名前は、1・2階とも、「つる」、「はくちょう」等「鳥」の名前をつけました。これにより、特別養護老人ホームひかりの里は、山の木に花が咲き、鳥が飛び交っている光景を連想するものとなりました。

寄贈車について ~ありがとうございます~

総務係長 伊藤 剛

平成20年12月に当園の公用車にニッサンキャラバンとダイハツムーブの2台が仲間入りしました。ニッサンキャラバンはオリックス社会貢献基金様より寄贈頂き、ダイハツムーブは「群馬県相談支援体制整備特別支援事業費補助金」により相談支援事業用として購入



寄贈式

が実現しました。オリックス社会貢献基金様は、オリックス株式会社を中心とするオリックスグループによって設立され、事業活動だけではカバーできない分野において継続的に支援活動を行い、真に「豊かな社会」の実現に寄与することを目的とされています。「群馬県相談支援体制整備特別支援事業費補助金」は障害を持った方が地域で安心して自立した生活を営むために相談支援体制の整備・充実強化を促進することが趣旨となっています。今回、増車となった2台が、当園の利用者様や地域の皆様方にとって有意義なクリスマスプレゼントとなるよう課せられた当園の責任を果たすため、職員の一層の努力が期待されています。この2台の車を通してさらに多くの方が幸せになれますように…。オリックス社会貢献基金様、群馬県様大変ありがとうございました。



ニッサンキャラバン

有意義なクリスマスプレゼントとなるよう課せられた当園の責任を果たすため、職員の一層の努力が期待されています。この2台の車を通してさらに多くの方が幸せになれますように…。オリックス社会貢献基金様、群馬県様大変ありがとうございました。

大地の増築工事

大地施設長 横山 俊郎

身体障害者療護施設「大地」は、群馬整肢療護園と障害児・者の一環施設として、平成14年4月1日に入所定員30名、短期入所1名の大人の施設としてスタートしました。当法人としてのビジョンでは、療護園の退園者の方が大勢いる中でご家族の高齢化等により、家族での生活が難しくなってきた方々の生活の場として、大地の設置を決めた経緯があります。しかし、現在大地の利用者の皆様の状況は、療護園の退園者の方は4割に届かない状況であり、退園者の方が大地の入所を希望しても、申込みをした順番でないと入所は出来ません。現在大地の入所を希望して待機をしている方が15名前後おります。この希望者の要望をかなえるため、平成21年3月末を目指して定員を5名増やす増築工事を行っております。予定どおり工事が完成すれば、4月より35名の定員となり障害者自立支援法の新体系の施設として、名称も「障害者支援施設 大地」と変わりスタートします。

平成20年度職員提案制度の結果報告

総務課 鈴木 裕幸

より良いサービス提供、より良い職場環境を整えるため毎年行われている職員提案制度について平成20年度の結果報告を致します。平成20年度は13件の応募があり、うち1件が最優秀賞、5件が優秀賞、1件が採用提案賞となりました。

本年度の採用提案は利用者様により良いサービスを提供する内容が中心となっております。最優秀賞に輝いた「ミニ療育部表彰」は、毎月各病棟で頑張っている利用者様を表彰し、活躍の場を広げる提案となっており、優秀賞の各提案においても、「温かく美味しい食事」をより美味しく食べていただくための仕組みづくり、間接照明でよりリラックスできる環境づくり等、当園のサービス向上へとつながる提案が多数採用となっております。

職員の皆様のアイデアをもとに当園は日々進化してまいります。より良い療育サービス提供のために当園の進化の原動力となる職員提案制度は本年度も実施する予定です。たくさんのお応募をお待ちしています。

- 最優秀賞・・・「ミニ療育部表彰」 城田 美季子
- 優秀賞・・・「おいしいご飯をよりおいしくするために」 三輪 浩史
- 同趣旨提案 勝野 恵
- 「間接照明への切り換え」 境野 健治
- 「若草Ⅰ病棟にプレイルーム的な空間を設ける」 富田 香織
- 町田 由紀子
- 「若草Ⅱに畳のスペースを作ろう」 山口 敦子
- 吉田 真澄
- 採用提案・・・「入園者の保護者の方のための 宿泊できる空間の提供」 勝野 恵